

学会彙報

○ 真宗学会研究例会

○ 九月十一日(火)午後四時

「見仏性・不見仏性」

特別研修員 三明智彰

「観整」三心の次第について」

博士課程三回生 島山正信

○ 十月九日(火)午後四時

「『教行信証』における付嘱の問題」

特別研修員 安藤文雄

「念仏者の現実態」

博士課程三回生 小島久佳

○ 十一月六日(火)午後四時

「『悲歎述懐文』について」

特別研修員 井上 円

「浄土の大菩提心」

博士課程三回生 一楽 真

○ 十二月四日(火)午後四時

「悲願の開闢―『方便化身土本卷』の構造―」

特別研修員 加来雄之

○ 十月二十四日(水)午後二時半より

尋源講堂において、真宗学会大会が開催

された。

「信仰の主体の形成」

本学教授 寺川俊昭先生

「キリスト教における二重終末論」

龍谷大学特任教授・京都大学名誉教授

武藤一雄先生

○ 十一月十三日(火)午後四時より

三一〇三教室において、修士論文中間発表会が行なわれた。

「信心仏性」

「本願の信」

○ 十二月五日(水)午後二時半より

一三〇一教室において、卒業論文中間発表会が行なわれた。

「唯信為要」

「無碍の一道」

「本願の正機」

「信心歡喜」

「浄土莊嚴の原理」

○ 著書紹介(昭和五十八年一月以降)

「廣瀬泉先生、『唯仏一道の開闢―教相判釈―』廣瀬泉講義集第二卷(文栄堂)、

『いのちの願いをたずねて』(文栄堂)

* 寺川俊昭先生、『唯信鈔文意』(真宗大谷派宗務所出版部)

○ 本学名誉教授の稲葉秀賢先生が、本年一月六日に逝去されました。学会への多大なる御尽力を謝し、謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

『親鸞教学』第四十五号をお届けします。今号も種々の事情により発行が大巾に遅れましたことをお詫び申し上げます。

わが『親鸞教学』は、学としての真宗学を明らかにすること、親鸞教学に関心をもち全ての人々の雑誌にすることを願

いとして、昭和三十七年十二月に創刊されました。再来年には、満二十五周年、

第五十号が発行される予定です。

二十余年、すでに我々は、幾人かの学

恩ある人々を喪いました。名利勝他に妥

協し或いは法身常住の夢に酔うことの許

されぬある危機的状况に我々は直面して

います。『経』は、「かくの如き諸仏皆

悉く已に過ぎたまひき」と告げています。

法蔵菩薩と師仏の出会い、久遠の昔で

はなく今日のことではなければなりません。

我々は、その年数を以て『親鸞教学』

を評価すべきではありません。実際に

『親鸞教学』は、信心純潔な真の自由人

を生み出して来たのでしょうか。親鸞の教

学を時代に明らかにしてきたと言い切れ

るのでしょうか。今日真剣に問われるべきは

その質の問題であります。

(三明)